

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502777		
法人名	医療法人 共栄会		
事業所名	グループホーム まいホーム川下		
所在地	札幌市白石区川下574番地61		
自己評価作成日	平成24年10月12日	評価結果市町村受理日	平成24年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502777-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所まいホーム川下は開設9年目を迎え、設備面の充実にも少しずつ力を入れていきたいと考えております。具体的には古くなったもの・汚れが目立ってきたもの・機能が遅れているものを徐々に入れ替えを行っており、またこれからも必要があれば予算の範囲内で行う予定しております。入居者さん・スタッフともに快適な環境にあることが必要だと考えております。日常のケアに関しては、入居者さんとの信頼関係が毎年向上していると感じております。これはスタッフの日々のレベルアップ向上心の積み重ねにあると実感しております。昨年同様、スタッフの定着がよく離職率も低下しておりますが、決してマンネリ化することなく、入居者さんとグループホームのことについてはもちろんのこと、共栄会全体のことをスタッフ一人ひとりが熟知し、業務に研鑽しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの個性と人格を尊重し、共同生活の中で生き生きと安心して暮らすための手がかりを見つけるツールとして、センター方式を活用しています。得意なこと、こだわっていること、できること、できにくいことなど気付きシートを通し、より良いケアに繋げています。囲碁が得意な利用者は職員と競い、デイケアでも腕前を磨いています。また、菜園作りが得意な利用者は種まきから収穫まで率先して関わり、料理や書道、音楽の得意な利用者にも生活の場で出番を見出し、それぞれが役割を持って生き生きと暮らし、生活の活性化が図られています。利用者の表情も明るく、仲良し同士おしゃべりを楽しんだり職員との会話で生活に潤いをもたらしています。職員は内外の研修を問わず自主参加するなど向上心を持って業務に当たり、より専門性を追求し、資格取得にも挑戦する職員も多くモチベーションを高めています。笑顔で生き生きと関わり、利用者や家族から信頼され、感謝や労いの言葉も多く寄せられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をスタッフルームに掲示していることはもちろんのこと、理念カードを作成し、スタッフ全員がネームプレートの中に入れており、いつでもサービスの提供の場面で振り返ることができるよう、また実践していけるよう心掛けている。	理念は地域密着型サービスとしての役割を意識して作り上げています。職員はミーティングで繰り返し話し合い、ネームプレートの裏に記載し、それぞれがいつでも振り返る事が出来、実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの公園・神社に散歩に行ったり、食事をしたり、また車で買い物・美容室に定期的に行ったりしている。	保育園児の訪問による遊戯などで利用者の笑顔をたくさん見ることができます。また、地域の神社祭では在宅時の思い出を語り懐かしむ利用者もいました。ホーム長（看護師）は介護予防教室に参加して血圧測定など健康相談を引き受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の介護予防講座に参加したり、神社のお祭りに行ったり、運営推進会議でグループホームの理解や取り組みを町内の方や地域包括センターの方と積極的に話し合いを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、利用者の状況やグループホームの取り組みなどを話し、ご家族からも意見が聞かれ、サービス向上につなげている。	運営推進会議は定期的開催されています。家族、地域包括支援センター職員、運営法人担当者、ホーム職員、時には町内会長（民生兼務）も出席して事業所の現況、活動などの報告を行い意見交換や家族の要望などについて話し合わせ、サービスの向上に活かされています。	家族の出席は多いものの、他のメンバーは固定化されている傾向にあり、担当者は町内会等に出席依頼を行っていますが、成果が出るまでには至っていません。今後も利用者を地域とともに支える思いを発信し、出席者が増える事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	白石区保健福祉部と密に連絡を取り合ったり、札幌市白石区の管理者会議にも毎回参加し、情報交換や協力体制に取り組んでいる。	行政には頻繁に出かけ、意見交換や相談の場を増やし情報交換しています。白石区の管理者会議にも参加して、協力体制に取り組んでいます。区保護課の職員の訪問もあります。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的なミーティングで身体拘束について勉強会を含め話し合い、意識して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の防止や虐待防止について定期的にミーティングで話し合ったり学習会を重ね、ケアについて振り返り、確認をしています。気付かないうちに抑圧感を招くような事が生じないように気付いた時にはその場で、お互いに注意し合える関係も出ています。日中は玄関の鍵はかけずに自由な暮らしを支えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどを通して、高齢者虐待について勉強会を持ち、常に虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人を利用されている入居者さんもあり、常に関係者と話し合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や体験外泊などを通して契約に関する不安・疑問に対して十分な説明を行い、理解に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには必要な時にはわかりやすく説明し、ご家族の要望などを聞き出すよう努めている。	利用者からは日常の関わりの中で意見や要望を受け止め、家族からは来訪時や電話、お便り等を利用する体制をとっています。また、定期的に家族アンケートを実施し、意見や要望などを集約して家族にフィードバックし、運営にも反映しています。意見箱にも投稿があります。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、ミーティングなどに限らず、職員の意見に耳を傾けるように心掛けている。年に数回、個人面談を行い職員と向き合う場を設けている。	ホーム長や管理者は職員の働きやすい職場づくりに努め、日頃から小さな事も話し合い、課題解決や理解に努めています。職員の意見・要望・提案にも耳を傾け検討し、運営に活かすように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年同様、年度末には人事考課を行っており、本人に結果を通知している。もちろんこれに限らず、必要があれば面談を行ったり、日々の中でも職場環境においてスタッフがどのように考えているのか聞き出すように心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を踏まえ、法人内外の研修に参加を促しており、研修後の報告やサービス向上に努めている。また新人に対して研修の取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会議などを通して研修などがある時は、積極的に参加し、他のグループホームとの交流を図り、質の向上の取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や体験入居時、ご家族・本人と話し合いを重ね、要望・不安なことなどを聞き、安心できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・入居の段階で、できるだけ詳しく説明し、要望・不安なことなどを聞き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況をよく把握し、ご家族と相談しながら必要なより良い支援を取り組むように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、能力や得意なこと、昔の習慣などを見出し、日々の生活の中で発揮できるよう働きかけを行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の生活の様子や変化など、常に情報交換を心掛け、協力を得ながら一緒に支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・ご友人などの面会・手紙・電話・外出・外泊などを行うことを支援し、関係づくりを大切にしている。	利用者と地域の神社祭に参加した際には在宅時代によく通った思い出を生き活きと語り、懐かしむ姿に職員は嬉しくなりました。盆、正月には家族の協力ですり外泊し墓参りや温泉にも出かけています。これまでの習慣や馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人同士の座席の工夫や外出行事などを通して、より良い関係を持てるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方への面会を定期的に行い、ホームの写真を持っていったり、誕生日には色紙を持っていき、関係を大切にしている。退居された方やご家族もいつも気軽に立ち寄れるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より関わりの中で、本人の思いを汲み取り、ご家族の意向・協力を得て、できるだけ本人本位となるよう心掛けている。	職員は利用者により寄り添い、思いやこだわりを受け止め、傾聴の姿勢を崩さず思いを汲み取り、利用者本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より本人の生活の様子をできるだけ詳しく情報収集し、ケアに活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースや習慣を大切に、健康状態に合わせ、できる限り自身の力で暮らしていけるよう支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって、今、最も必要な課題を日々の生活のケアの中より考え、ご家族の要望などを参考にし、より良く生活を送ることができるようチームで話し合い、具体的にケアをできるよう意識し、介護計画を作成している。また、ケアの実施状況・見直しを定期的に行っている。	利用者や家族の意見を取り入れ、ホームでのより良い暮らしのために職員で話し合い、利用者にもわかりやすいようにプランを作成しています。身体や精神面の変化、ケアの妥当性を見極め、継続や追加、変更がないかなどモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や介護計画に沿ったケアを意識し、実施状況を介護記録へ記入し、情報の共有を図り、変化のある時は申し送りの時に確認し次のケアへと活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる範囲の中で、本人・ご家族の希望や要望に対し、柔軟に対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ、外出・外食・散歩など、一人ひとりに合わせた機会をつくり、生活の刺激・活性化を図り楽しむよう心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院が隣接しており、定期的な受診を行い、ご家族へも受診内容の報告をこまめに行っている。	医療面では併設病院との連携がスムーズに行われています。以前からのかかりつけ医には原則家族が対応していますが時に職員が同伴し、薬の変更などは家族と連携を図り、職員間で情報を共有しています。併設病院から歯科医の往診対応も可能です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診時、または気になる状態の変化がある時はその都度、専門医に相談し情報交換を行い、適切な治療を行い健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、病院関係者から状況説明をしてもらい、退院後の生活が円滑にできるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢であるため、重度化へと変化することは避けられず、入居時より指針を説明し、早い段階でご家族様・担当医と相談しながら意向を確認していく。	入居時に重度化の指針に沿ってホームの出来る事、出来ない事を説明し、理解を得るようにしています。利用者の状態に変化が生じた場合には家族、医師、職員と話し合いを繰り返し、本人や家族の意向を確認しながら共有し支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行い、その都度ミーティングで話し合い、確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、すべての職員が参加し、避難の方法を身につけ、ミーティングでも再確認し話し合いをしている。	防災については敷地内の運営法人全体が一体化となって訓練を実施しています。出火場所を想定した模擬訓練は、隣接する施設の防火扉を抜け、安全に素早く移動したり、誘導についても確認しています。非常食・備品も備え、防災点検も実施されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の中においても一人ひとり人格を尊重し、言葉遣い・態度に注意を払うように心掛けている。日々のケアにおいてもオムツの扱い・トイレ誘導など、プライバシーを意識し関わりを行っている。	日々のケアの中で人格を尊重し、プライバシーへの配慮に心掛けています。食べこぼしやトイレの誘導にはさり気なく支援し、入浴時にもプライバシーを意識しながら対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや気持ちを聞き取り、話しやすい雰囲気づくりを工夫したり、自己決定できるよう働きかけを行っている。うまく表現できない入居者さんでも、表情などで気持ちを汲むよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース・習慣を大切に過ごしていただいている。共同生活において、安全に暮らして頂けるよう最低のルールの範囲内で希望に沿うよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時の服装・化粧など、身だしなみやこだわりを大切にしたり、季節感やその人らしい服装選びを一緒にし支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんそれぞれの好みのものを献立に取り入れ、会話の中で何が食べたいのかさりげなく聞き出して提供している。一緒に料理をできるものを意識して取り入れたりと、楽しい食事となるよう工夫している。誕生日には希望のものを提供している。	利用者が食材の下ごしらえや味見、後片付けなど職員と会話をしながら楽しく参加しています。刺身やお寿司のリクエストも多く、時には応えています。盛りつけの彩と分量、味付けは職員の工夫や気配りが感じられ、職員も利用者と会話をしながら頂いており、食事光景は家庭的で和やかな雰囲気です。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の摂取・水分量を把握し、状態に合わせた食事の提供を行い、栄養面に注意を払っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎日の習慣とし、不十分な時は介助を行い、義歯の衛生面も注意を払っている。定期的に歯科受診している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄状況を把握し、一人ひとりの排泄パターンに沿ったトイレへの声掛けを行ったり、オムツ・パットから下着へと効果的に使用し、積極的に自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援をしています。夜間はおむつでも日中は布の下着と排泄用品で失敗を減らし、もじもじする仕草や体を揺らすなどの行動を察知し、トイレへ誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、腸への働きを意識した飲み物を提供したり、水分補給・散歩などを日課にし、便秘予防に心掛けている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴できるよう、時間・曜日など本人の生活パターンに合わせて行っている。また、本人の気分や体調などを考慮し、別の日の入浴や足浴、清拭などで対応し清潔さを保持するよう心掛けている。	利用者のその時々々の身体状況や希望に合わせて午前と午後に分けて入浴を楽しめるように支援しています。入浴を拒む場合には足浴、清拭または日を改めるなど個々の利用者の気持ちに沿った支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活・睡眠のリズムを把握し、生活習慣に合わせた関わりを行い、安心して気持ちよく入眠できるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容・目的・調整・副作用について送りノートで報告し、申し送り時に再確認し、慎重に扱っており、状態の観察をこまめに行い、早めに変化の確認をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や嗜好、楽しみなことを日々の生活の中で取り入れ、習慣となるよう支援している。 (掃除・料理・タオルたたみ・シーツ交換・ごみ捨てなど)			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望をできるだけ取り入れた外出・外食などを定期的に行い、楽しい時間をもつようにしている。年間を通して行事を計画し、ご家族の参加のご協力をいただき、一緒に過ごす時間を設けるようにしている。	年に数回は家族の参加協力を得て花見や紅葉狩りで一緒に過ごす時間を設けています。利用者は外食や買い物、公園の散歩、神社祭に出かけています。冬季間には同じ敷地内にある運営法人の施設に出かけ売店にも立ち寄るなど、気分転換や運動不足解消になっています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事や食材の買い物の時など、お金を自分自身で扱う場面をつくるようにしている。ご家族と外出するときは交通機関を利用する機会を持つようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、取り次いだり、遠方にいるご家族からの定期的な手紙のやり取りなど、協力を得て、安心して暮らせるよう支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるような飾りや掲示物を意識し、話題となるよう定期的に変えたり、部屋の換気・温度などは常に注意を払い、過ごしやすいうように心掛けている。	玄関の植木鉢には花が咲き、居間や廊下には和を基調とした手造りの演出と紅葉を利用した作品が大人の空間を作り、落ち着いた季節感ある場を提供しています。廊下の端には生き活きとした観葉植物で職員や利用者の心を潤しています。ホーム内は整理整頓されており、清潔で空調も整えられ、利用者にとっても職員にとっても居心地よく過ごせる場となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の工夫をしたり、馴染みの場所を持てるよう、自由に過ごしていただくようにしている。気の合う利用者さん同士でそれぞれの居室で一緒に過ごしたり、お茶を飲んだり楽しんでいただいている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込んだり、こだわりを大事にして、その人らしい雰囲気のある居心地の良い環境になるよう支援している。	利用者の馴染みの家具やテレビ、コンパクトな仏壇を持ち込み、家族の写真やお気に入りの生活用品を身近に置き、安心して過ごせるように配置しています。それぞれの個性やこだわりを大切にし、その人らしい居室になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の設定や座席など、一人ひとりの状況に沿うように事前に十分検討し、配置を行い、安全に移動できたり目的の場所へ自分自身で移動できる生活を送ることができるように工夫している。			